

研究主題

主体的・探究的に学ぶ児童を育成する総合的な学習の時間の指導の工夫 —地域の特色や教科等との関連を活かした単元構想と協働的な学びの場の設定を通して—

前橋市立元総社小学校 黒澤 智章

I 主題設定の理由

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月21日中央教育審議会）では「総合的な学習の時間と各教科等の相互の関わりを意識しながら、学校全体で育てたい資質・能力に対応したカリキュラム・マネジメントが行われるようにする」とされている。また、群馬県の「学校教育の指針」では、「探究的な学習を充実させるための適切な単元計画を設定すること」「『課題の設定』や『整理・分析』の過程で、自他の考えを広げたり深めたりするための対話的な学びを実現すること」と示されている。前橋市の努力点には、「協働的に問題を解決する学習活動の工夫」として「学ぶ意欲や課題追究の意欲を高めるために、地域の方々と交流し、（中略）幅広いものの見方や考えに触れ、多面的に情報を収集することができる活動を計画的に設定する」と示されている。

本学級5年生の児童は、決められた課題や指示されたことに対しては真面目に取り組むことができる。一方で、自分から課題を見つけ、解決に向けて主体的に取り組むことは苦手である。また、単元の構成が「課題をもち、情報を集め、まとめる」という流れに固定化されていて、探究的な学習が問題解決的な活動の発展的に繰り返されているとは言えない現状がある。指導の課題として、地域の特性の理解・活用をしきれていない、教科等との関連が薄い、低学年の生活科での取組とあま

り変わらず発達段階に合っていないといった児童の実態と思考に即していない単元設定が行われていたことや、問題解決の過程を発展的に繰り返す意識が薄かったことが挙げられる。また、「整理・分析」の過程が充実していない現状がある。その原因については、児童が他教科の学習で培ってきた力を活用できずに、情報収集したものをうまく整理・分析できていないのではないかと考える。

そこで、本研究では児童の思考の流れを重視し、地域の特色を取り入れたり、他教科で学習したことを活かした学習になるように教科間をつなぐカリキュラム・マネジメントを行ったりし、児童が主体的に問題解決を発展的に繰り返すとともに価値ある課題追究ができるよう単元構想を行う。また、課題解決に向け主体的・探究的に学ぶことができるように、問題解決の各過程において協働的な学びの場を設定することを通して自他の考えを広げたり深めたりする活動の充実を図る。

このような実践により、主体的・探究的に学ぶ児童を育成することができると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

総合的な学習の時間において、主体的・探究的に学ぶ児童を育成するために、地域の特色や教科等との関連を活かした単元構想をするとともに、児童が思考を広げたり深めたりできる協働的な学びの場を設定することが有効であることを、実践を通して明らかにする。

Ⅲ 研究の見通し

- 1 地域の特色や教科等との関連を活かした単元構想を行い、それに基づき指導を工夫することで、児童が学ぶ意欲や課題追究の意欲を高め主体的に課題解決に取り組めるようになるだろう。
- 2 問題解決の各過程において、協働的な学びの場を設定し、自他の考えを広げたり深めたりする活動を充実させることで、課題解決に向け主体的・探究的に学ぶ児童が育成できるであろう。

Ⅳ 研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 主体的・探究的に学ぶ児童

主体的に学ぶ児童とは、総合的な学習の時間の課題を自分事として捉え、意欲的に解決に取り組む児童のことである。また、探究的に学ぶ児童とは、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の一連の問題解決の過程を繰り返す中で学びを深める児童のことである。

(2) 地域の特色を活かした単元構想

地域の特色を把握し、それを活かした活動ができる場面を想定し、児童の探究的な学習の中での必要感に応じて、的確に地域の特色を活用できる単元構想のことである。地域の特色としては、石倉一本ねぎや大友大根などのブランド野菜が地域にあること、JAの支所が近隣にあること、校区で農家をしている方がいることが挙げられる。さらに、日頃から低学年の野菜づくりの指導をしてくださる緑の支援隊の方々がいること、進学先の中学校が食農体験を実施していることなどが挙げられる。探究的な学習の中で、児童から「分からないことや困ったこと」について専門家に聞いてみたいなどの思いが高まったときに、

地域の人に直接話が聞けることが児童の学習への意欲や探究的な学習を発展的に繰り返すことにつながると考える。

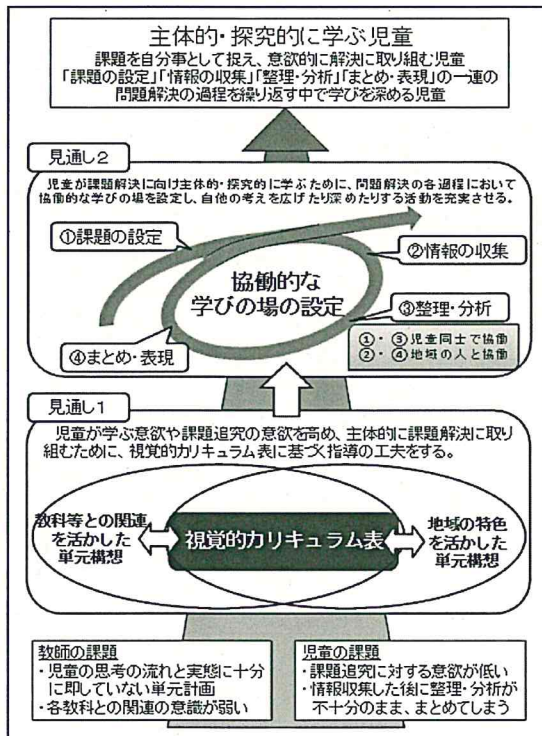
(3) 教科等との関連を活かした単元構想

教科等との関連を分かりやすく一覧にまとめた「視覚的カリキュラム表」を作成し、教師が意図的・計画的に教科等との関連を図る単元構想のことである。「視覚的カリキュラム表」とは、学年の教科の単元の一覧を基に、各教科で身に付ける資質・能力を明記し、総合的な学習の時間の単元と関わりのある教科等の単元を矢印でつないだり、地域との関連をまとめたりした表のことである。このつながりには、各教科の「資質・能力」での関連や各教科の「内容」での関連が考えられる。単元構想時や児童の学習前に教師側が「視覚的カリキュラム表」を作成・閲覧することを通して、教師側に教科等や地域との関連の意識が生まれ、その意識をもって指導することで、探究的な学習につながると考える。

(4) 協働的な学びの場の設定

①「課題の設定」②「情報の収集」③「整理・分析」④「まとめ・表現」といった一連の問題解決場面全てにおいて、意識的に協働的な学びの場を取り入れていくことである。①「課題の設定」③「整理・分析」の過程では、思考を広げたり深めたりするために様々な考えをもった児童同士が対話をする協働的な学びの場を設定する。②「情報の収集」の過程では、一方的に情報を得るだけでなく、地域の人に自分たちが聞きたいことを質問し、それについての話を聞いたり、知りたいことについて追究したりできる協働的な学びの場を設定する。④「まとめ・表現」の過程では、関わりのある地域の人に向けて相手意識や目的意識をもった提案をする協働的な学びの場を設定する。このような協働的な一連の問題解決の過程の設定と充実を通して、主体的・探究的に学ぶ児童の育成につながると考える。

2 研究構想図



V 実践の概要とまとめ

本研究は小学校第5学年（児童数26名）の総合的な学習の時間、「食について考え、体験し、分かったことをまとめよう」（25時間）と「食の大切さについて発信しよう」（27時間）の2単元で授業実践を行った（表1）。

表1 実践の流れ（単元計画）

過程	時数	主な学習活動
課題の設定	2	「食について考え、体験し、分かったことをまとめよう」 ○身近な地域で食材がどのように生産されているのかを考える。社会の学習と関連させ、その生産にはどのような苦勞・工夫があるのかについて考える。
情報の収集・分析	7	◆大課題1：普段何気なく食べている食料のことについてくわしく知ろう。 ○自分の口に入るまでに食料生産でどんな苦勞があるのか知る方法として野菜づくりに取り組む計画を立てる。
	8	○野菜づくりをする。 ・児童の必要感に応じて、野菜づくりについて地域の方に質問をする。
まとめ・表現	8	○野菜づくりについてまとめる。 ・野菜のつくり方、野菜づくりを通して感じた生産者の苦勞・工夫についてまとめる。

課題の設定	4	「食の大切さについて発信しよう」	○地域の方からの手紙や栄養教諭からの情報で、食についての問題に気付く。 ・食についての問題についての資料を集め、分類する。 ・分類した問題から取り組むテーマを決める。
情報の収集・分析	11		◆大課題2：食の大切さについて、問題点と解決策を発信しよう ○情報収集し、問題点に対する原因を考える。（個人） ○各テーマについての問題点から原因を考え、グループで付箋紙を使い整理・分析をする。（グループ）
	10		○それぞれのテーマの問題点、その原因、解決策をグループごとに模造紙にまとめる。 ○地域の方・保護者に向けて発表をする。
活かす	2		○これまでの取組を振り返ろう。 ・学習を活かして、自分たちにできないか考え、友達と意見交流をする。

1 見通し1【地域の特色や教科等との関連を活かした単元構想】

(1) 実践の概要

単元構想にあたっては、以前から実施していた単元の踏襲ではなく、新たな単元づくりとして行う。地域の特色を把握し、活かせるような特色はないか考え、更に5年生という発達段階（教科等で身に付ける資質・能力など）を考え、それを踏まえて児童の思考の流れを重視した児童にとって魅力ある単元になるように単元構想を行う。

① 地域の特色を活かした単元構想

本学習では、日頃から学校を支援してくださっていた緑の支援隊の方々など地域の人材を活かした単元構想をする。地域にはどのような人材（人）がいてどのような場所（もの）があり、どのようなことが行われているのかを教師側が把握しておくことで、単元の中で児童の「知りたい」「見たい」という思いが表出してきたときに、その思いに的確に応えることができる。このような単元構想と考えるの基に、児童の思考の流れと地域の特色をつなぐ指導の工夫を行う。

② 教科等との関連を活かした単元構想

教科等との関連を分かりやすく一覧にまとめた視覚的カリキュラム表を作成し単元構想

の手立てとする(表2)。視覚的カリキュラム表は本校で以前から作成していた学年の単元を一覧にまとめた表(単元一覧表)を基に作成したもので、総合の欄を教科等の中心に移動し、単元名だけではなく、具体的な学習内容も時系列で分かるように示す。また、教科等で学習したことを総合の本単元の学習でも活用していきける単元については、総合の学習内容を示した欄と教科等の単元名とを矢印でつなぎ、それぞれの関連が一目で分かるようにする。

表2 視覚的カリキュラム表の一部

視覚的カリキュラム表(5年)		4月	5月
国語	①日常生活に必要な国語について、その特質を理解し、適切に使う力 ②伝え合う力、思考力、想像力 ③言葉のもつよさを認識、言語感覚、国語の大切さの自覚、国語を尊重して能力の向上を図る態度	5年生の国語学習を始めるよ① 1 登場人物どうしの関わりをとりえ感想を伝えよう② なまえつけてよ(4) ☆漢字の広場1(1) ☆季節の言葉1(2)	2 筆者の考えの運め方をとらえ、自分の考えを表現しよう③ 見立てる/生き物は陽性☆漢字の広場②(1) 声に出して楽しもう④ 古典の世界(一) 竹取物語・平家物語・徒然草
社会	①社会的事象について多角的に考える力、社会との関わり方を選択・判断する力、それらを適切に表現する力 ②主体的に問題解決する力など		1 国土の気候の特色と人々のくらし⑤
算数	①数量や図形の概念や性質などを理解、数理的に処理する技能 ②問題を立てて考える力、総合的に考える力、簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて表表に表したりする力 ③よりよく問題解決しようとする態度など	1 整数と小数⑥ 2 直方体や立方体の体積⑦	3 分数⑧ 4 小数のかけ算⑨
理科	①自然の事物・現象の理解、観察、実験などに関する基本的な技能 ②観察、実験をし、問題解決する力 ③自然を愛する心持、主体的に問題解決しようとする態度	1 天気の変化⑩	2 植物の発芽⑪ 3 植物の成長⑫
総合的な学習の時間	①課題の解決に必要な知識及び技能、課題に関わる概念を形成、探究的な学習のよさを理解 ②実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ、表現する ③探究的な学習に主体的・協力的に取り組むとともに、互いのよさを賞しながら、積極的に社会に参画しようとする態度	<p>食について考え、体験し、分かった</p> <p>○昔段何気なく食べている食料に(4~5月)他教科との関(5~7月)野菜が連の中から、身近な地域のでの努力・苦勞・工食料生産に興味をもち、野(5)にられるように野菜づくりを計画する。り組む。その中で、野菜づくりに向けて、育てに応じて、地域(緑)る野菜や畑づくりのことな方にインタビューをどについて、情報を集め、つかった野菜を話し合い、計画を立てる。</p>	
地域	・元総社地区の野菜作りについて緑の支援隊の野菜作りのなかで、児童の必要感に応じて緑の		

このつながりには、例えば国語科で培う資質・能力である「意図していることを考えながら聞き合う力や事実と考えを区別して書く力、提案文を書くために問題点とその原因を考える力」、また算数科で培う資質・能力である「データを整理する計算力や演繹的に考える力、グラフを読み解く力」などの「資質・能力」を視点としたつながりが考えられる。一方、理科の学習内容「植物の発芽や成長」、社会科の学習内容「食料自給率や食料生産がかかえる問題」などと「内容的」な視点での

つながりが考えられる。

視覚的カリキュラム表を作成することを通して、教科等でどのような「資質・能力」を身に付けさせ、学習の中でどのような「内容」を取り扱うのかを教師側が把握することを通して、5年生という発達段階を考慮し、単元構想を行う。

さらに、視覚的カリキュラム表には地域の特色との関連を図りやすいように、総合の下の欄には「地域」の欄も設ける。

(2) 結果と考察

① 地域の特色を活かした単元構想

1学期に学習した「食について考え、体験し、分かったことをまとめよう」では、野菜づくりに取り組んだ。児童は、自分たちの手で野菜づくりをすることを目標に、意欲的に野菜づくりに取り組み始めた。野菜をつくる畑が十分に確保できない状況でも、校庭の端の方を開墾してまでやりたいという意欲をもって取り組んでいた(図1)。



図1 畑づくりに取り組む児童の様子

児童の話合いの中で「とうもろこし」「モロヘイヤ」を育てることを決め、種から苗づくりをはじめた段階で児童は「これからどうやって育てていったらいいのか」と不安を感じ始めた。インターネットで調べてみても情報が多くどれを信じていいのかわからない様子で、児童から「地域の野菜の専門家」である「緑の支援隊」の方に話が聞きたいという思いが出てきた。そこで、「緑の支援隊」の方をお招きし、野菜の育て方について質問し、教えていただいた。この時間の後に書いた児

童の振り返りからは、「緑の支援隊」の方への感謝の気持ちが多く見られた。そして、野菜づくりを「がんばりたい」「早くやりたい」という思いがふくらんだ。

2学期の「食の大切さについて発信しよう」では、課題把握の段階で1学期にお世話になった「緑の支援隊」の方からの手紙という形で学習の導入を行った(表3)。

表3 緑の支援隊の方からの手紙の一部

ところで、私たち緑の支援隊のメンバーは野菜づくりについて、研究してよりよい野菜が採れるように努力してきました。しかし、これから先の未来もずっと今までどおり野菜(食料)を作っていくにはわたしたちの力だけではどうにもできないような問題もたくさんあります。例えば、農家の人の高齢化の問題があります。高齢の農家の割合が昔に比べて増えています。あとを継いでくれる若い人たちがあまりいません。私たちが長い時間で経験してきたことを伝えられる人がいないのです。他にも、食料自給率の問題もあります。食料は、他にもいろいろな問題をかかえています。そこで、みんなにお願いがあります。食料には、どんな問題があるのか。また、それを克服していくにはどうしていけばいいのか。私たちやみんなが生活する中で、どのようなことに気を付けて生活すればいいのかなどを考えて、教えてほしいのです。私たち緑の支援隊のメンバーがみんなに野菜の作り方を教えたように、教えてもらえればうれしいです。同じ地域に住む、元総社小学校の5年生に期待しています。

緑の支援隊より

お世話になった緑の支援隊の方からの手紙ということで児童が興味津々で手紙を読む姿が見られた。手紙には下線部のような「食についての問題」に気付けるような部分や二重下線部のような児童へ向けて「解決策を提案して欲しい」との内容があった。児童の振り返りには、この手紙により、課題追究意欲が喚起されたことが分かる記述があった(表4)。

表4 課題把握の際の振り返り①

今日の学習について振り返ろう
緑の支援隊の人は日々野菜のことについて、研究しているのに、今のわかい人に伝えてあげたいけどわか者がいないことがよくわかりました。これから先に問題点を解決したいです。

また、本校所属の栄養教諭から、給食センターの写真(図2)を用いての紹介を行うことで、「残飯がたくさん出ていること」「消毒をしっかりとっていること」などの問題や工夫に関する気付きをもつことができた。

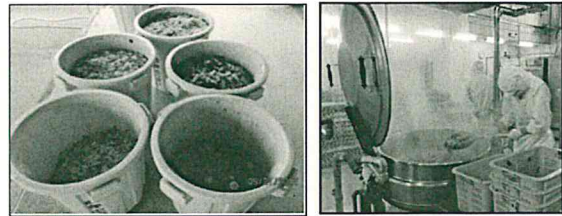


図2 栄養教諭からの写真

1学期にお世話になった緑の支援隊の方からの手紙や本校所属の栄養教諭からの提案で児童の意欲の高まりが感じられた(表5)。

表5 課題把握の際の振り返り②

今日の学習について振り返ろう
給食を作るのに、食べ物から、食器までたくさんの方に、消毒かしてあってすごいと思いました。そして毎日、鬼、ていたよりたくさんさんはんかあることを知って、おもしろかったです。

②教科等との関連を活かした単元構想

2学期の国語の「明日をつくるわたしたち」という単元では、「問題点からその解決策を考え、提案文としてまとめる」学習をする。視覚的カリキュラム表を作成しながら、それを活かした単元構想をする段階で、学習内容を把握しておき、そこで身に付けた資質・能力を2学期の総合「食の大切さについて発信しよう」の整理・分析の場面で活用するといった指導の工夫を行った。実際の整理・分析の授業場面では、次のような教師と児童との学習のめあてにつながるやりとり(二重下線部)が見られた(表6)。

表6 他教科との関連についての対話C児童T教師

※下線部は他教科の資質・能力及び内容とのつながりに気付いた場面
※二重下線部は児童とのやりとりがめあてにつながった場面

- T : みんなは今、食についての問題について考えているわけだけど、最終的にはどうするのかな？
- C1 : 緑の支援隊の方に発表して伝える。
- T : 何を伝えるの？
- C2 : 問題についての解決策です。
- T : そう。解決策を考えるって、最近他の教科で勉強したよね？
- C3 : あ！国語の「提案書」！
- T : そうそう。その時も、問題点があってその解決策を考えましたね。
- C4 : そうです！
- T : 問題点の解決策を考えるには、何を考えるとよかったですか？
- C5 : その原因です。
- T : そうでしたね。今日は問題点とその原因のつながりについてグループごとに考えていきましょう。

整理・分析の手段として国語で身に付けた資質・能力が活かせることを教師が把握しておいたため、(表6)のやりとりが生まれ、下線部のような児童の気付きにつながったと考える。また、国語科で学習した「問題点から原因を考え、そこから解決策を見付けていく」という方法だったため、児童は整理・分析の仕方が想起でき、意欲を高め主体的に課題解決に取り組めるようになったと考える。

2 見通し2【協働的な学びの場の設定】

(1)実践の概要

児童が自他の考えを広げたり深めたりし、主体的・探究的に学んでいけるように問題解決的な学習の各過程全てで協働的な学びの場を設定する。①「課題の設定」③「整理・分析」の過程では児童同士の対話、②「情報の収集」の過程では地域の人との対話、④「まとめ・表現」の過程では相手意識や目的意識をもった発表といった協働的な学びの場を各過程で設定し、活動の充実を図る。

(2)結果と考察

①課題の設定の過程【児童同士の協働】

2学期の「食の大切さについて発信しよう」の単元では、緑の支援隊の方からの手紙や栄養教諭からの提案を受けた後に、児童は各自で新聞記事や家庭でのインタビュー、他教科での学びなどから情報を集め、個人でウェビングをした。その後、学級全体で黒板を使ってウェビングを行う協働的な学びをし、問題点を広げながら情報を整理していった(図3)。

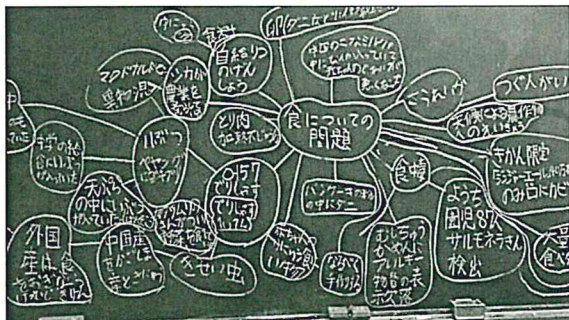


図3 全体でのウェビングの様子

自分の集めてきた情報以外にウェビングの中で触れ、「食についての問題」が想像以上にたくさんあることに気付き、更に「食についての問題」に興味をもったり、児童の考えが広がったりした姿が見られた。この活動を通してもっと知りたいといった様子が見られ、探究的な学びへ向かう児童の姿が見られた。

広げた情報を基に教師と児童で整理をし、食についての問題を6つ設定した。

- ・食材の安全性
- ・フードロス
- ・食中毒
- ・食の欧米化
- ・食料自給率
- ・農家の高齢化

②情報の収集の過程【地域の方との協働】

1学期の「食について考え、体験し、分かったことをまとめよう」の単元では、野菜づくりの実践の中で児童から「専門家に聞きたい」という思いが出たときに合わせて、緑の支援隊の方に質問をする場を設定した(図4)。



図4 緑の支援隊の方への質問の様子

質問し答えていただく中で、疑問や知りたいことができた児童はその場で更に緑の支援隊の方に質問をするなど、地域の人をお招きしたからこそその情報収集ができた。児童はこの学びを通して野菜づくりにより意欲をもち取り組んでいった。教えていただいたことを苗づくり・植付け・水やりなどの野菜づくりの場面の中で活かすといった探究的な学習の姿が見られた。

③整理・分析の過程【児童同士の協働】

2学期の「食の大切さについて発信しよう」の単元では、「食についての問題」に関して6つのテーマごとに追究を行った。グループ

内では同じテーマで追究するが、情報収集については個人で分担をした。情報収集し、テーマごとに様々な問題点が見付かった時点で、個人でその原因を考えた。そして、その問題点と原因をもち寄って、グループで伝え合った。さらに、もち寄った問題点に対する原因について、他のメンバーから

- ①納得できたか
- ②他に原因はないか

という2つの視点でグループの意見を出すという方法で整理・分析を行った。その際の「食材の安全性」のグループでは、次のような児童同士の対話があった(表7)。

表7 食材の安全性のグループの対話

C1: このグラフを見てみると、日本は世界の国に比べて農薬をたくさん使っていることが分かるよ。
 C2: そうなんだ。日本って農薬をたくさん使ってるんだね。それで、C1さんはその原因を…。
 C1: 日本には虫が多いからって考えたんだけど…。^①
 C3: 確かに虫っていっぱいいるよね。だから農薬で虫を駆除しなくちゃいけないのかな。
 C2: だけど、他の国に比べて多いのかはよく分からないよね。^②
 C1: そうだね。調べてみる必要があるね。
 C1: あと、日本は農薬を使っている量があまり決められていないからどんどん農薬を使っているのではな
 いかと思ったんだ。^③
 C3: え? そうなの?
 C1: うーん…これもあとで調べてみよう。^④

日本の農薬使用量が多いという問題点に対して、C1はその原因を下線部①のように伝えた。C3は納得したようであったが、C2が納得できる原因であるのか不安であることを下線部②のように伝えると、C1は更に調べる必要があることに気付いた様子であった。後半では、C1が更なる原因を下線部③のように日本の農薬使用量の基準についての原因を出した。しかし、これについてもはっきりとしたことが分からず下線部④のように再度調べてみようという提案が出された。このように、グループのメンバーが持ち寄った問題点とそれについてそれぞれが考えてきた原因について、グループの他のメンバーからの意見が出され、協働的に整理・分析に取り組み、それぞれの考えを広げたり、深めたりすることにつながった(図5)。

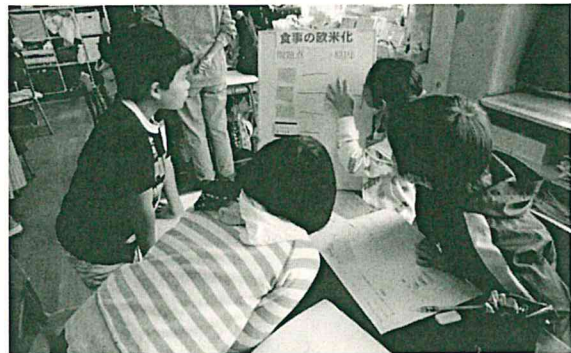


図5 協働的に整理・分析に取り組んでいる様子

その時間の児童の振り返りでは、原因が本当なのか更に追究したいといった記述(表8)や、他の児童から出された問題点に興味をもったという記述があった(表9)。

表8 更に追究したいという思いの表れた振り返り

今日の学習について振り返ろう
 自分と同じような問題点をもっている人もいた。いろいろ問題点があつたおもしろいと感じた。でもからはその原因が何人とうなのか言明できたりとさくも考えたりした。と思った。

表9 他者の問題点に興味をもてた振り返り

今日の学習について振り返ろう
 自分以外のいろいろな問題点も原因があつて他にこんな問題があるんだと分かって、きょんを戸が、たおもしろかった。てい

さらに、この後の時間には、他のグループに自分たちが分析した結果を分析で使ったホワイトボードを見せながら伝え、「納得できたか」「他に原因はないか」という2つの視点でアドバイスを伝え合った(図6)。

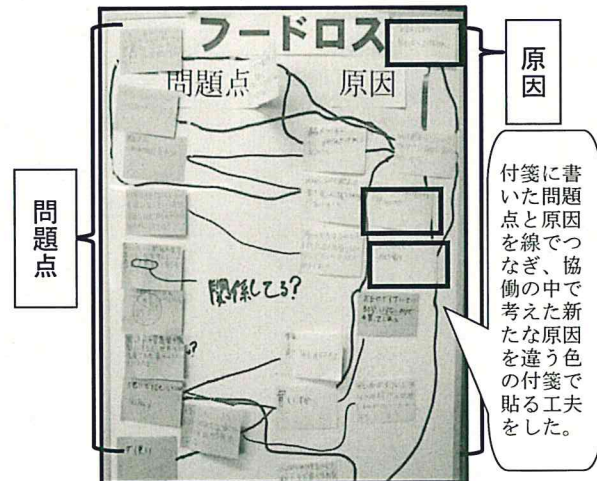


図6 他のグループとの交流後のホワイトボード

新たな原因が考えられたり、調べたいことができたりしたグループはホワイトボードには新たな付箋を貼った（□で囲まれた付箋が新たに貼られた付箋）。別のグループと交流することで新たな疑問が生まれたという記述も見られた(表 10)。

表 10 新たな疑問が生まれたことの方の振り返り

今日の学習について振り返ろう。欧米化の強さにアドバイスを書いて、もらうこともできた。もっと調べてみたいことが増えた。

自他のグループとの交流を通して整理・分析を行ったことで、まとめに向けて意味のある整理・分析が行えた様子や整理・分析をしたことで更に追究したいという思いに至ったという探究的に学ぼうとする姿が見られた。

④まとめ・表現の過程【地域の方との協働】

2学期の「食の大切さについて発信しよう」の単元では、「食についての問題」に関して班ごとにまとめを行い、解決策の提案を行った。発表の際には、緑の支援隊の方と栄養教諭を招待して、発表を行った(図7)。



図7 地域の方を招待しての発表の様子

課題に取り組むきっかけをつくってくださった緑の支援隊の方をお招きしての発表ということで、発表の準備の段階からうまく伝えるにはどうしたらいいのかを意識しながら準備をする様子が見られた。緑の支援隊の方や栄養教諭が発表を聞きに来てくれることで、「発表や発表準備をがんばろうと意欲的に取り組むことができた」と回答した児童は、アンケートの結果26人中、全員であった。

以上のように①～④の問題解決的な学習の各過程を通して協働的な学びの場を設定したことで、課題解決に向け、主体的・探究的に学ぶ児童が育成できたと考えられる。

VI 研究のまとめ

1 研究の成果

- 地域の方のアドバイスを児童が必要とする場面を想定して単元構想を行ったことで児童の思いに応え、地域の支援をいただくことができた。アドバイスをいただいたことで、児童の更なる主体的な活動につながった。また、地域の方と継続的につながりを持ち、手紙を通して「食についての問題」の提起をしていただいたことで、課題解決の意欲を高め、主体的な活動につながった。
- 視覚的カリキュラム表を作成し、それに基づいて教科等の資質・能力や内容でのつながりを意識しながら指導にあたることができた。教師側の他教科の学習を活かせる投げかけから、児童がそれを受けて、主体的に課題解決をしていく姿が見られた。
- 児童同士や地域の方と協働する場面を意識的に取り入れたことで、児童が課題を共有したり、考えを広げたり深めたりすることにつながり、そこから更に調べたい、知りたい、相談したいといった主体的で探究的に学ぶ姿が見られた。

2 今後の課題

- 地域の人材を活かした単元構想を行ったが、地域の特徴と児童の実態は変化するものであるため、見直しを続ける必要がある。日々の指導にあたる中で見直しをし、次年度に引き継いでいくことが大切である。

(参考文献)

- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』東洋館出版社(2016)
- ・文部科学省『初等教育資料 2016年6月号』東洋館出版社(2016)